

## 3章 生活時間

この章では、女性と男性の日々の生活時間と余暇活動に関する状況を見ることとする。人々の生活時間と余暇活動に関する統計としては、総務省の「社会生活基本調査」が有用で、この統計は、5年ごとの日々の生活における「時間のすごし方」と1年間の「余暇活動」の状況など、国民の暮らしぶりを調査するものである。

この中から、女性と男性の区分のみならず、有業者、無業者別、または年齢階級別で生活時間を見ることにより、より具体的な神奈川県の状態をみることとする。

また、「社会生活基本調査」における、生活時間の区分を、生理的時間（睡眠、身の回り、食事、休養・くつろぎ、受診・診療）、収入労働時間（仕事、通勤・通学の時間）、家事的時間（家事、育児、介護・看護、買い物時間）、余暇的時間（以上の生理的、収入労働、家事的時間以外の時間）に分けて検討してみた。

神奈川の女性の家事的時間は、有業者が3時間00分、無業者が5時間09分である。全国の有業女性は3時間00分、無業者は4時間36分で、神奈川の無業女性の家事的時間が33分長い。また、神奈川の有業男性の収入労働時間は7時間55分で、全国の有業男性（7時間36分）と比較し、19分長い（3-1）。収入を伴う労働を有償労働、収入を伴わない労働を無償労働というが、無償労働の多くを女性が担い、有償労働の多くを男性が担うという性別役割分業が、全国と比較してより鮮明に現れている。

また、有業者の年齢階級別の仕事と家事的時間を男女で比較すると、女性では35歳以上で、仕事と家事的時間に大きな差はないが、男性では神奈川県・全国とも35～44歳を頂点とした仕事時間の長さ、どの年代においてもおおむね30分前後の家事的時間との差が対象的である。

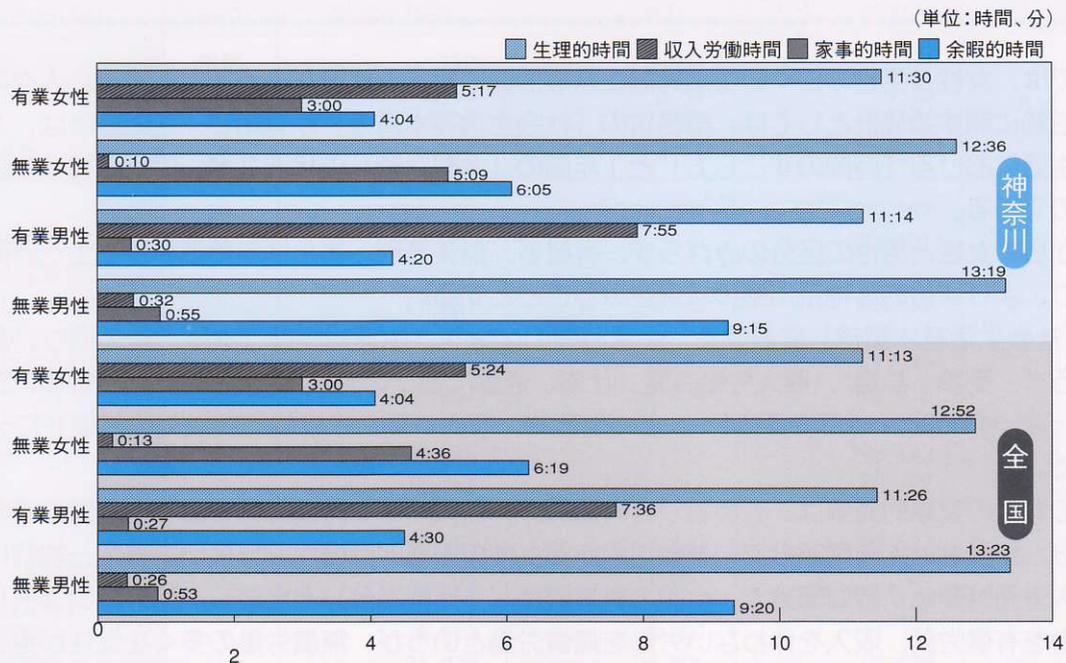
図表には示さないが、神奈川県の特徴として、女性、男性に限らず、通勤・通学時間が全国と比較し長い。これは、前述の人口・家族の章でみたように、昼夜間人口の人口の移動が大きいことなどにも関連性があるだろう。

次に、神奈川におけるインターネットの利用の行動者率をみると、女性、男性とも、どの年代においても、全国より高い値となっている。また、15～24歳では、行動者率が女性の方が高く、25歳以上では男性の方が高くなり、45～54歳で女性（40.3%）と男性（62.8%）の差が22.5%と最も大きくなる（3-3）。

ボランティア活動の種類別行動者率は、「スポーツ・文化・芸術に関係した活動」を除く全ての分野で、女性全体の行動者率が男性全体を上回っている（3-4）。

### 3-1 性、有業・無業、行動の種類別週平均1日あたりの生活時間（15歳以上、総平均時間） 神奈川県・全国（2001年）

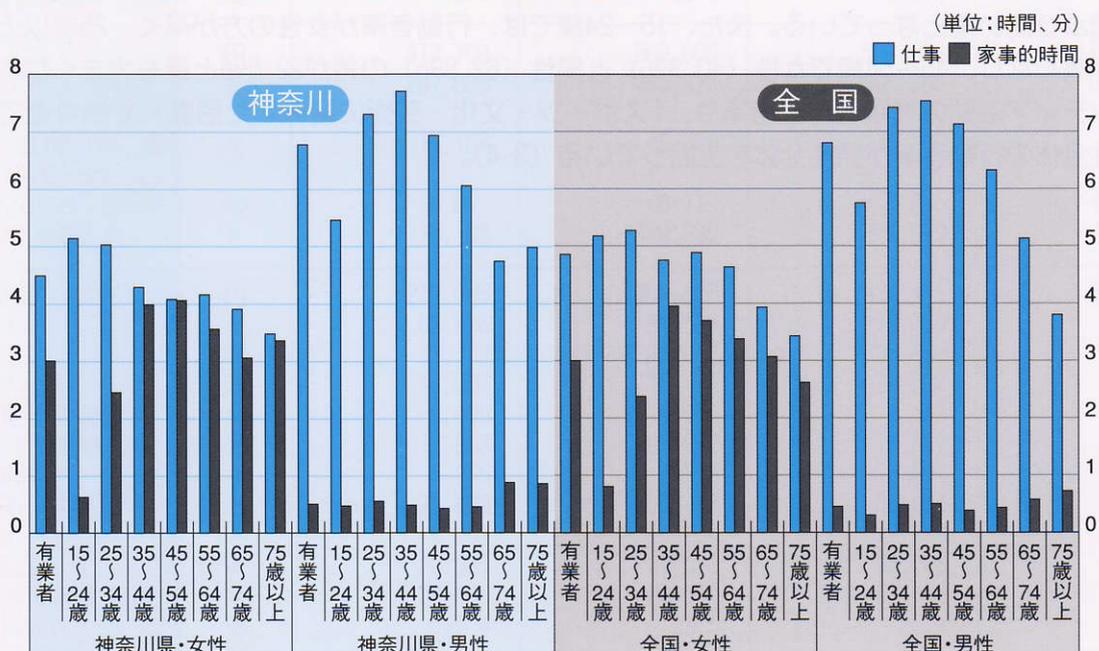
収入労働（有償労働）と家事的時間（無償労働）の時間を合算すると、神奈川の有業女性は8時間17分、有業男性は8時間25分となり、有業女性は男性とさほど変わらない長さで働いている。全国と比べると、有業者の男性の収入労働時間は神奈川7時間55分、全国7時間36分で19分長く、無業者の女性の家事的時間は神奈川5時間9分、全国4時間36分と33分長い。



注：生理的時間（睡眠+身の回り+食事+休養・くつろぎ+受診・診療）、収入労働時間（仕事+通勤・通学）、家事的時間（家事、介護・看護+育児+買い物）、余暇的時間（以上の生理的、収入労働、家事的時間以外）  
出所 社会生活基本調査より作成

### 3-2 有業者の性、年齢階級、行動の種類別総平均1日あたりの仕事と家庭的時間 神奈川県・全国（15歳以上）（2001年）

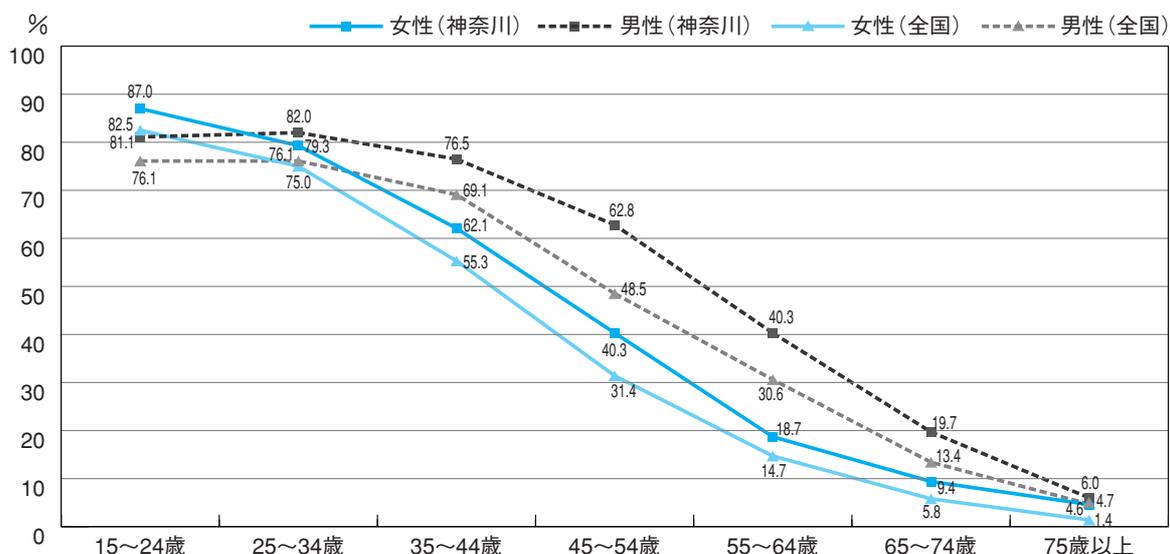
神奈川の有業女性の年齢階級別仕事時間は、35~74歳でおおむね4時間前後と年齢階級により大きな変化はないが有業男性の仕事時間は、35~44歳を頂点とした山形となっている。また、有業男性の家事的時間は、65歳以上でやや高くなるが、どの年齢層でも30分程度で、全国的な傾向と同様きわめて短い。



注：仕事時間（仕事）、家庭的時間（家事+介護・看護+育児+買い物）  
出所 社会生活基本調査より作成

### 3-3 男女・年齢別、インターネットの利用の行動者率－神奈川県・全国（2001年）

インターネットの利用の行動者率は、女性、男性とも、全ての年齢階級で全国平均より高い。45～54歳で女性（40.3）と男性（62.8）の行動者率に最も大きな差（22.5）がある。



出所 社会生活基本調査より作成

### 3-4 男女、年齢、ボランティア活動の種類別行動者率（10歳以上人口）－神奈川県・全国（2001年）

ボランティア活動の行動者率は、各年齢階級・種類によってばらつきがある。神奈川では「まちづくりのための活動」が女性10.2%、男性8.2%と女性、男性ともに最も高い。また、年齢別にみると35～44歳の女性で「子供を対象とした活動」(17.6%)が、65歳以上の男性では「まちづくりのための活動」(14.0%)の行動者率が高い。（単位：%）

	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	その他
神奈川・女性	4.0	5.7	3.2	6.6	2.2	10.2	4.1	6.5	2.0	3.7
10～14歳	0.6	8.2	5.2	2.7	1.5	12.2	3.9	13.3	3.8	3.8
15～24歳	5.6	5.9	3.6	5.7	3.1	2.8	0.6	3.3	0.7	1.3
25～34歳	4.9	1.2	1.8	5.7	0.7	8.3	2.9	7.5	1.2	4.1
35～44歳	4.1	2.3	1.8	17.6	2.3	13.3	7.4	8.9	3.0	3.3
45～54歳	3.2	6.7	4.1	6.3	3.7	13.2	5.9	6.9	1.8	4.8
55～64歳	4.6	9.8	4.8	3.9	1.5	12.5	5.7	6.3	3.0	4.0
65歳以上	2.8	8.1	2.8	2.7	2.6	9.8	2.2	4.1	1.7	4.5
神奈川・男性	3.4	2.4	1.3	2.7	3.4	8.2	3.8	4.6	0.8	2.6
10～14歳	0.4	4.0	0.3	1.7	1.4	7.4	1.0	7.8	—	—
15～24歳	2.8	2.7	1.7	3.3	3.1	3.2	0.8	3.7	0.5	4.3
25～34歳	7.0	0.7	0.3	1.9	2.3	3.7	2.7	2.8	0.8	1.7
35～44歳	2.8	2.2	1.7	4.3	4.2	9.4	3.4	5.6	0.5	1.7
45～54歳	2.5	1.8	1.8	3.1	5.7	9.4	6.0	4.9	0.7	3.3
55～64歳	2.6	2.5	1.5	2.2	3.3	11.5	5.7	4.3	1.4	3.7
65歳以上	2.3	5.3	1.7	1.8	2.7	14.0	5.2	6.1	0.9	2.3
全国・女性	5.0	6.6	2.9	6.6	2.2	14.1	4.9	8.6	1.6	3.3
全国・男性	4.2	3.5	1.6	4.0	4.0	14.0	6.2	7.4	1.2	3.2

出所 社会生活基本調査より作成